

ごみ排出量(令和6年度)

生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画と削減目標

令和3年6月に策定した生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画では、令和元年度を基準として、令和12年度までに家庭系ごみ排出量を10.8%削減、事業系ごみ排出量を10.5%削減することを目指します。さらに人口減少による4.6%の自然減を足して、市全体のごみ排出量を15.3%削減する目標を定めました。

家庭系・事業系ごみ排出量実績

以下の表は、基準年度となる令和元年度から令和6年度までの家庭系・事業系ごみ排出量実績と、生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画最終年度となる令和12年度の目標排出量を示しています。

	実績						目標	令和元年度からの削減率					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		令和2年度 /令和元年度	令和3年度 /令和元年度	令和4年度 /令和元年度	令和5年度 /令和元年度	令和6年度 /令和元年度	令和12年度 /令和元年度
人口	119,281	118,621	118,139	117,629	116,819	116,207	114,078	-	-	-	-	-	-
ごみ排出量	33,780	33,601	33,796	32,461	32,260	30,236	28,610	0.5%	▲0.0%	3.9%	4.5%	10.5%	15.3%
家庭系ごみ排出量	24,759	25,342	24,947	24,077	23,935	22,884	20,951	▲2.4%	▲0.8%	2.8%	3.3%	7.6%	15.4%
事業系ごみ排出量	9,021	8,259	8,849	8,384	8,325	7,352	7,659	8.4%	1.9%	7.1%	7.7%	18.5%	15.1%

家庭系ごみの排出量

令和6年度において22,884トンとなり、令和5年度の23,935トンから1,051トン減少しました。1人1日当たりのごみ量も、令和5年度の560gから令和6年度は540gへと減少しており、計画目標に向けて着実に進んでいます。これは可燃ごみや資源ごみの減少によるものであり、資源ごみについては新聞や雑誌などの紙類や、ビン・カン類の減少が影響していると考えられます。可燃ごみについても、家庭での分別意識の定着や人口減少によるものと考えられます。

事業系ごみの排出量

事業系ごみの排出量は、令和6年度において7,352トンとなり、令和5年度の8,325トンから973トン減少しました。事業活動における分別の徹底や資源化推進に向けた取組、ペーパーレス化の進展などが影響していると考えられます。

～循環型社会を形成する「5R」の取組～

今までの「3R」に新たな2つの「R」(リフューズ、リペア)を加えた「5R」の基本理念のもと、食べ切れる分だけの購入や、いらなくなった食器の回収など、ごみ減量の取組を推進していきます。

- Refuse(リフューズ)断る :ごみになるものを断ること
- Reduce(リデュース)発生抑制 :ごみを発生させないこと
- Reuse(リユース)再使用 :ものを繰り返し使うこと
- Repair(リペア)修理 :ものを修理して使うこと
- Recycle(リサイクル)再生利用 :資源として再生利用すること